

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：15101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24730755

研究課題名(和文) 師範学校から新制大学再編における音楽教育実践に関する研究

研究課題名(英文) A Study of Music Education from Teacher's College to New System University

研究代表者

鈴木 慎一郎 (SUZUKI, Shinichiro)

鳥取大学・地域学部・准教授

研究者番号：90442087

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円、(間接経費) 360,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は師範学校から新制大学への再編における音楽教育実践に関する制度・内容・実態を明らかにすることが目的である。暫定教科書の文部省『師範音楽 本科用』の奥付には1946(昭和21)年6月22日印刷、26日発行と記され、連合国軍総司令部の許可を得ている。『師範音楽 本科用』では歌曲しか掲載されていない。

さらに下記の5ケースに分類し、再編の違いに伴う教員養成における音楽教育実践の特色を明らかにした。師範学校 単科の学芸大学、師範学校+専門学校 総合大学の学芸学部、師範学校+高等学校 総合大学の教育学部、師範学校+高等師範学校 総合大学の教育学部、師範学校+帝国大学 総合大学の教育学部

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to examine system, content and the actual conditions about music education from teacher's college to new system university. The provisional textbook on music for teacher's college "Shihan Ongaku Honkayou" was printed in 22 June 1946 and was issued in 26 June. It was approved by Ministry of Education. "Shihan Ongaku Honkayou" has only 'Song'.

The following 5 classification revealed music education with distinct features by reorganization. 1)teacher's college-Liberal arts College, 2)teacher's college+technical college-the Faculty of Liberal arts of University, 3)teacher's college+high school-the Faculty of education of University, 4)teacher's college+high teacher's college-the Faculty of education of University, 5)teacher's college+University-the Faculty of education of University

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：師範学校 新制大学 音楽教育実践 教員養成 カリキュラム 暫定教科書 再編 特色

1. 研究開始当初の背景

教員養成に関して、教育実践力等を重視した「プロフェッショナルリズム」と、教科の専門性等を重視した「アカデミズム」のバランスが議論されてきた(船寄 1998)。2008(平成 20)年、教職大学院が新設され、2010(平成 22)年以降、「教職実習演習」が必修化された。「教育実践学」と呼ばれる学問も登場した(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 2006)。このように現在の教員養成においては、「プロフェッショナルリズム」の傾向がやや強いように思われる。このような背景のもと、申請者は師範学校における音楽教育実践を史的に考察することを試みている。具体的には「師範学校規定」「師範学校教授要目」が改正された 1931(昭和 6)年 4 月から敗戦の 1945(昭和 20)年 8 月までにおける師範学校の音楽教育実践に関する制度・内容・実態を明らかにした(鈴木 2006)。1943(昭和 18)年 3 月までは、師範学校では検定教科書制度が採られ、『バイエルピアノ教則本』や『コールユープンゲン』等が文部省検定済師範学校音楽教科書であった。1943(昭和 18)年の「師範教育令改正」を受け、府県立中等学校程度であった師範学校が官立専門学校程度へと昇格する。これまで歌唱が中心であった音楽のカリキュラムは、昇格に伴い、鑑賞や聴覚訓練、器楽等幅広い内容を含んだ詳細なカリキュラムが編成され、文部省『師範音楽 本科用巻一』『師範器楽 本科用巻一』といった国定師範学校音楽教科書も発行された。その他、1931(昭和 6)年 4 月には「増課科目」、1943(昭和 18)年には「選修教科」という教科の専修制が新設され、戦後の教員養成大学小学校教員養成課程で導入された「ピーク制」の基になる方法が行われていた。

1949(昭和 24)年 5 月、新制大学が発足し、1951(昭和 26)年 3 月、師範学校は廃校となる。師範学校から新制大学への教員養成の移譲は、「プロフェッショナルリズム」から「リベラリズム」を含む「アカデミズム」への転換であった。ここに焦点を当てた研究として T E E S 研究会(2001)等教育制度の分野からの先行研究は多くなされているものの、教科教育の視点では取り組まれていない。「プロフェッショナルリズム」と「アカデミズム」の関係については、各教科から丁寧に検討していかなければ解明できない。さらに、初等教員に限った養成を担っていた師範学校は、戦後、中等教員養成の機能も加わる。この点も加味し、戦前から戦後への連続面、非連続面を整理していく必要がある。そこで本研究計画はまだ解明されていない戦後の師範学校から新制大学への再編にかけての音楽教育実践に関する制度・内容・実態についての史的研究を行う。

2. 研究の目的

本研究は師範学校から新制大学への再編

における音楽教育実践に関する制度・内容・実態を明らかにすることが目的である。

3. 研究の方法

(1) 戦前の師範学校音楽教科書と戦後の師範学校暫定音楽教科書の比較分析ならびに戦前の師範学校音楽教科書への「墨塗り」措置の実態を把握することを通して、戦前から戦後にかけて継承された教育内容と削除された教育内容を整理する。

(2) 以下の 5 ケースについて、カリキュラム、音楽教員、音楽の施設・設備等について、以下の 5 ケースの比較考察を行い、再編の特徴を明らかにする。

師範学校 単科の学芸大学
師範学校 + 専門学校 総合大学の学芸学部
師範学校 + 高等学校 総合大学の教育学部
師範学校 + 高等師範学校 総合大学の教育学部
師範学校 + 帝国大学 総合大学の教育学部

(3) 当時の学生へ聞き取り調査を通して、音楽教育実践の実態を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 暫定教科書『師範音楽 本科用』
文部省『師範音楽 本科用』の奥付には、1946(昭和 21)年 6 月 22 日印刷、26 日発行、27 日文部省検査済と記される。また、「Approved by Ministry of Education(Date Jun.22,1946)」と付記され、連合国軍総司令部の許可を得ている。

A5 サイズ、総ページ数は 30 ページ。1943(昭和 18)年の『師範音楽 本科用巻一』では B5 サイズ、総ページ数は 180 ページ、表紙、裏表紙には厚手のケント紙が使用されていた。それに対し、『師範音楽 本科用』では表紙はあるものの、特別な用紙は使用されていない。

『師範音楽 本科用』では、『師範音楽 本科用巻一』において含まれていた「儀式唱歌」「基礎練習」「音楽理論」「日本音楽史」「附録」が削除され、「歌曲」しか掲載されていない。『師範音楽 本科用巻一』においては、22 曲の歌曲が掲載されていた。それに対し、『師範音楽 本科用』では、『四季』『ほととぎす』『平安の花』『夏は来ぬ』『日本農道の歌』『水邊歌』『健歩の歌』『霜月』『古歌四首』『われた茶碗』の 10 曲に削減された。挿絵は当初からなく、補充教材は加えられていない。『日本農道の歌』と『健歩の歌』については、歌詞の修正がされる。



図1 『師範音楽 本科用』表紙

(2) 師範学校 単科の学芸大学

東京学芸大学を事例に挙げ、保育者養成の特徴を明らかにした。

附属幼稚園を持たない師範学校もあった中、東京第一師範学校は、附属幼稚園を有し、保育実習が実施されていた。また、託児所においても保育奉仕という形で実習が展開されていた。その他、帝都教育会附属教員保姆伝習所も組織されていた。このような状況と東京という地盤も伴って、新制大学発足直後の東京学芸大学竹早分校において、二年課程に「丙類（幼稚園教員養成課程）」が設置され、全国に先駆けて保育者養成が展開された。

東京第一師範学校、東京学芸大学、帝都教育会附属教員保姆伝習所ともに音楽教育実践中でもピアノが重要視されている。

(3) 師範学校 + 専門学校 総合大学の学芸学部

鳥取大学を事例に挙げ、小学校教員養成における音楽教育実践の特徴を明らかにした。

鳥取師範学校から鳥取大学の教員に異動したのは、小泉恵のみであった。

鳥取大学学芸学部小学校教員養成の音楽教育実践では、教材研究に関しては欠かすことなく必修とされていた。教科に関する専門科目については、1952(昭和27)年度を除き、必修であった。1953(昭和28)年度、1954(昭和29)年度には「特別研究」という独自の教科が新設され、技能教科が重視されていた。また、一般教育科目にも「芸術学」の授業が開講されていた。したがって、鳥取大学学芸学部は、全教科を担当する小学校教員養成のために独自のカリキュラムが工夫され、決して軽視されたカリキュラムではないことが判明した。

(4) 師範学校 + 高等学校 総合大学の教育学部

新潟大学を事例に挙げ、教育学部高田分校に設置された「芸能学科」について下記の特徴を明らかにした。

・戦前の新潟第二師範学校の音楽教員の大給正夫、戦後の新潟第二師範学校に採用され

た篠原正敏の2名とも、新潟大学へ着任する。さらに3名の教員が新規に採用され、1950(昭和25)年の時点で5名の専任教員で組織された。その中には声楽の伊藤武雄も含まれる。

・音楽の専門課程科目は、50単位と多く課せられ、「声楽、鍵盤楽器、弦・管楽器、作曲、音楽学」の専攻に分かれての指導が展開された。また、「教育実習」は、7週間(4単位)と長期間課せられ、高等学校においても実施されていた。

(5) 師範学校 + 高等師範学校 総合大学の教育学部

広島大学を事例に挙げ、音楽教員養成の樹立の特徴について明らかにした。

広島女子高等師範学校体育科は、東京女子高等師範学校体育科で行っていた体育・音楽教員養成を図ろうとしていた。しかし、授業の初日、原爆に直撃し、戦前は一度も授業を実施できなかった。そのような中、1945(昭和20)年9月7日という異例な早さで授業を開始する。戦後においても体育・音楽教員養成を試みてはいたのだが、授業時数等の関係で実現できず、体育教員養成に留まっていた。ただし、体育科の中で「音楽理論」「声楽」「器楽」「美学」といった音楽の専門教育が組み込まれ、ピアノの台数が少ないにもかかわらず、ピアノの指導も根気強く行われた。

戦後の広島女子高等師範学校では、東京音楽学校出身者の糸賀英憲、水野康孝、貫名美名彦の3名の音楽教員で組織され、昇格した広島大学教育学部福山分校に異動し、連続性が確認できる。広島師範学校からの異動はなかった。1962(昭和37)年度には、10名の専任教員で構成され、音楽教員養成としての組織の拡大が見られ、高等学校教員養成や研究者養成といった独自色を発揮する。

音楽の専攻科目については、教職員免許法の規定よりはるかに多い56単位が課せられ、「ピアノ、声楽、管弦打、理論」の4分野に分かれ、音楽の専門教育が展開される。

(6) 師範学校 + 帝国大学 総合大学の教育学部

東北大学を事例に挙げ、小学校教員養成、保育者養成の特徴について明らかにした。

宮城師範学校を母体とした北分校(教育教養部)は、教育学部の前期課程のみならず、後期課程の教員養成に関する教育を行っていた。カリキュラムに関しては、教育職員免許法に準じ、独自性はほとんど見られなかった。しかし、「教育実習」に関しては、実習日誌や指導案の作成が課せられ、実習の内容も段階を踏んで展開されていた。また、レポートの作成が課せられ、教育科学的な視点で実践を捉える手立ても施されていた。さらに附属学校との連携が図られ、研究会が実施されていた。このように帝国大学の研究手法と師範学校の教員養成の側面を融合させた画

期的な取り組みも見られた。

一方、保育者養成に関しては、1954(昭和29)年4月1日以降、幼稚園教諭免許状授与の所有資格を得させるための適当な課程として認定されていた。しかしながら、カリキュラムにおいて「幼稚園課程」が位置付けられたのは、1950(昭和25)年8月の『東北大学教養部学生便覧』においてのみで、実際に幼稚園教諭免許状を取得して幼稚園へ就職した学生はいない状況であった。東北大学教育学部附属幼稚園においても「本学学生の教育実習を行うこと」を任務の目的に掲げてあったものの、東北大学の学生の教育実習の場として機能することはなかった。ただし、幼小連携、男性保育者の受け入れ、附属と大学の連携等を先進的に取り入れて実践研究を行っていた点は着目される。

その反面、東北大学は現職教育の側面においては積極的な役割を果たした。教育職員免許法認定講習や教育職員免許法単位認定試験を実施し、幼稚園の上級免許状取得を促進していた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

鈴木慎一郎、鳥取大学学芸学部小学校教員養成における音楽教育実践：カリキュラムに着目して、鳥取大学教育研究論集、査読無、第4号、2014、37 - 49

鈴木慎一郎、有本真紀、菅道子、村尾忠廣、有本瞳日月の鳥取師範学校卒業論文に見る和音感教育：教育実習におけるその実践に注目して、地域学論集(鳥取大学地域学部紀要)、査読無、第10巻第3号、2014、113 - 133

鈴木慎一郎、文部省『師範音楽 本科用巻一』に掲載された既成の曲の概観：《夏は来ぬ》を中心に、関西楽理研究、査読無、XXX(30)号、2013、207 - 213

鈴木慎一郎、東北大学教育学部における小学校教員養成：宮城師範学校から東北大学教育学部へ、地域学論集(鳥取大学地域学部紀要)、査読無、第9巻第3号、2013、21 - 36

〔学会発表〕(計6件)

鈴木慎一郎、東京第一師範学校から東京学芸大学再編における保育者養成の動向、日本保育学会第67回大会、2014年5月18日、城南学園

鈴木慎一郎、広島女子高等師範学校から広島大学再編における音楽教員養成：体育・音楽教員養成から音楽教員養成へ、日本音楽教育学会中国四国地区例会、2014年3月15日、鳴門教育大学

鈴木慎一郎、新潟大学教育学部高田分校「芸能学科」再編の動向：新潟第二師範学校から新潟大学教育学部高田分校へ、日本音楽教育学会第44回大会、2013年10月12日、弘前大学

村尾忠廣、有本真紀、菅道子、鈴木慎一郎、有本瞳日月の鳥取師範学校音楽科卒業論文に見る国民学校期の音感教育、日本音楽教育学会第44回大会、2013年10月12日、弘前大学

鈴木慎一郎、暫定教科書『師範音楽 本科用』で修正された《日本農道の歌》：作曲家安部幸明・作詞家吉植庄亮に着目して、日本音楽表現学会第11回大会、2013年6月9日、いわて県情報交流センター

鈴木慎一郎、宮城師範学校から東北大学教育学部再編における保育者養成の動向、日本保育学会第66回大会、2013年5月12日、中村学園大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

鈴木 慎一郎(SUZUKI, Shinichiro)
鳥取大学・地域学部・准教授
研究者番号：90442087

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：